

各教育事務所に学校アドバイザーとして臨床心理士や教員OB等の専門家を配置するなど積極的に取り組んだ。

3 高等学校教育関係

- (1) 学習指導要領改訂に基づく教育課程が実施されたことから、高等学校の教育課程の実施に伴う指導上の諸問題を研究協議し、その解明を図り、教職員の指導力の向上に資する目的を持つ「教育課程運営改善講習会」を県内4地区で開催した。
- (2) 教職員現職教育計画に基づいて、各種研修会や講習会を開催し、教職員の職責にふさわしい資質・能力の向上に努めるとともに、社会の変化や時代の進展に対応した実践的指導力を修得させるため、先端技術の研修や海外教育事情調査、英語担当教員海外派遣事業等を実施した。
- (3) 進学推進第2期モデル校として11校を指定し、高等学校生徒の学力向上と大学進学等への進路希望実現を推進する「学力向上ステップアッププラン事業」の一層の充実を努めた。
- (4) 県立高等学校の施設整備事業関係では、福島高等学校他、延べ36校の校舎・体育館を大規模改築事業（56億5,652万4千円）で整備し、矢吹高等学校・安積第二高等学校を校舎増築事業（17億8,027万8千円）で整備。また、産業教育振興法に基づく施設の整備として、喜多方工業高等学校家庭科総合実習室（1億6,934万2千円）を整備するとともに、富岡高等学校に男女共学化施設整備として（9,326万7千円）、平工業高等学校第二体育館新築事業（2億5,385万7千円）を整備した。

4 養護教育関係

- (1) 障害のある児童生徒が、盲・聾・養護学校の公開や共同活動等を通じ、健常児と親しみをもってふれあい、社会の一員としていきいきと地域の中で生活できるよう支援する「いきいきふれあいフェスティバル事業」を実施した。
- (2) 軽度の心身障害児を担当している小・中学校の通常の学級の教員を対象として、心身障害児に関する基礎的知識、支援の方法等についての資質を高める事業として「軽度心身障害児指導法セミナー」を実施した。
- (3) 通級による指導をより一層充実、発展させるために、「ふれあい通級スタディプラン研究協議会」を開催し、指導の推進に努めた。また、通級による指導の理解と普及のために「通級による指導」の手引きを作成した。
- (4) 盲・聾・養護学校教育の充実を図るため「養護教育改善対策会議」において、社会参加・自立を図る養護教育の在り方について研究を行った。
- (5) 特殊学校の施設整備事業として、盲・聾学校の大規模改築事業（2億2,230万1千円）、あぶくま養護学校の校舎新築（8億5,074万5千円）、会津養護学校の校舎増築（1億8,033万1千円）を行った。

5 文化関係

- (1) 県立美術館及び県立博物館では、学校週5日制対応事業の一環として、小・中学生を対象に毎月第2・第4土曜日の常設展示観覧料を全額免除した。

- (2) 天然記念物の将来的な保護と活用について検討するため、「赤井谷地沼野植物群落」及び「尾瀬」についての調査研究事業に取り組んだ。
- (3) 県民の教育、芸術及び文化の振興を図るため、美術作品及び博物館資料の整理・収集と調査研究を計画的に推進し、常設展・企画展等の充実を努めるとともに、教育普及のための各種事業を行い、本県美術振興の中心施設としての県立美術館及び県内博物館の中心施設としての県立博物館の整備充実を努めた。
- (4) ふくしま国体秋季大会公開競技のひとつとして「スポーツ芸術」を実施した。
- (5) 文化財の調査・保存・活用等の拠点施設としての「文化財センター」（仮称）について、その具体的内容を検討し、建設場所（白河市、安達町）を決定した。

6 保健体育関係

- (1) 広く県民にスポーツ・レクリエーションの場を提供し、活動を一層促進するため「第4回スポーツ・レクリエーション祭」を開催した。
- (2) 本県の地域スポーツの振興と体育指導委員の資質の向上を図ることを目的に「平成7年度体育指導委員研究大会」を開催した。
- (3) 「ふくしま国体」を契機として、取り組んだ成果を学校教育活動の一層の充実・発展に生かすことをねらいとして「ふくしま国体推進学校教育関係者連絡協議会」を開催した。
- (4) 近年における社会環境の変容は、児童生徒を取り巻く生活環境や生活様式を大きく変化させ、新たな健康問題をもたらしている。こうした問題に適切に対応し、児童生徒が生涯を通じて積極的に健康を保持増進するためには、学校における健康教育の充実を図ることが急務であるので、体力・運動能力の向上をはじめ、保健・安全教育、学校給食等の一層の推進に努めた。

7 福利厚生関係

教職員一人一人が現職中から退職後までを視野に入れた長期的な生涯生活設計を自ら確立し実現していくことの重要性について理解を深めるために、「教職員生涯生活設計推進計画」のもとに、その普及啓発に努めた。

特に、自ら作成する生涯生活設計づくりを支援するために「マイライフプランセミナー」を共済組合・互助会が共同で開催し、教職員の生涯生活設計確立の推進を図った。

なお、国体に関する事業では、「ふくしま国体」の開催県としてふさわしい成績を収めるために、より一層の競技力向上を図る事業として、「競技力向上推進総合計画」に基づき、指導者の養成・確保等を計画的に行い、競技力の向上と県民スポーツの普及・振興を図るとともに、重点強化合宿事業等により選手の育成・強化を図った。また、その成果があり、本県選手団は大活躍を示し、国体史上最高得点で男女総合及び女子総合優勝を果たし、天皇杯及び皇后杯を獲得した。